

JIS

ぶりき及びぶりき原板

JIS G 3303 : 2022

(JISF)

令和 4 年 3 月 22 日 改正

認定産業標準作成機関 作成・審議

(日本規格協会 発行)

一般社団法人日本鉄鋼連盟標準化センター 鋼材規格三者委員会（産業標準作成委員会） 構成表

	氏名	所属
(委員長)	榎 学	東京大学
(副委員長)	緒形 俊夫	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	田中 龍彦	東京理科大学名誉教授
	藤原 弘次	EMF 応用計測
(委員)	下津佐 正貴	株式会社神戸製鋼所
	中澤 晋	JFE スチール株式会社
	後藤 勝志	大同特殊鋼株式会社
	松本 聡	日本製鉄株式会社
	田之上 辰朗	一般社団法人火力原子力発電技術協会（株式会社 IHI）
	山口 栄輝	公益社団法人土木学会（九州工業大学）
	種物谷 宣高	高圧ガス保安協会
	竹内 徹	一般社団法人日本建築学会（東京工業大学大学院）
	小野田 光芳	線材製品協会（日鉄 SG ワイヤ株式会社）
	松本 和幸	一般財団法人日本海事協会
	加藤 健	日本金属継手協会
	桜井 英裕	一般社団法人日本鋼構造協会
	近藤 隆明	一般社団法人日本自動車工業会（日産自動車株式会社）
	相川 卓洋	公益社団法人日本水道協会
	高木 茂樹	日本機械工具工業会（三菱マテリアル株式会社）
	伊藤 叡	元新日鉄住金エンジニアリング株式会社
	林 央	元国立研究開発法人理化学研究所
	岩田 善裕	国立研究開発法人建築研究所
	桑原 利彦	東京農工大学大学院
	富山 禎仁	国立研究開発法人土木研究所
	戸上 義朗	一般社団法人日本アルミニウム協会
	堤 紳介	一般財団法人日本規格協会
	熊井 勝敏	日本検査キューエイ株式会社
	富士原 正義	一般社団法人日本試験機工業会
	栗原 正明	一般社団法人日本伸鋼協会
	小野 昭紘	公益社団法人日本分析化学会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：昭和 27.4.14 改正：令和 4.3.22

担 当 部 署：経済産業省産業技術環境局 国際標準課

(〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1)

官 報 掲 載 日：令和 4.3.22

認定産業標準作成機関：一般社団法人日本鉄鋼連盟

(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 TEL 03-3669-4826)

審 議 委 員 会：一般社団法人日本鉄鋼連盟標準化センター 鋼材規格三者委員会（産業標準作成委員会）

(委員長 榎 学)

この規格についての意見又は質問は、上記認定産業標準作成機関にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに見直しが行われ速やかに確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 種類, 種類の記号及び適用厚さ	5
5 原材料	5
5.1 鋼種	5
5.2 すず地金	5
6 原板の製造方法	5
6.1 製造方法	5
6.2 焼なまし方法及び記号	5
7 すず付着量	6
7.1 電気めっきぶりきのすず付着量	6
7.2 熱せきぶりきのすず付着量	6
7.3 すず付着量の表示方法	7
7.4 製品マーク	7
8 調質度	7
8.1 SR ぶりき及び SR 原板	7
8.2 DR ぶりき及び DR 原板	8
9 表面仕上げ	9
9.1 原板	9
9.2 電気めっきぶりき	9
10 後処理	9
11 表面塗油	10
12 寸法及び形状	10
12.1 厚さ及びその許容差	10
12.2 幅の許容差	10
12.3 長さの許容差	10
12.4 コイル内径	10
12.5 直角度	11
12.6 横曲がり	11
12.7 平たん度	11
13 質量	12
13.1 質量の取扱い	12
13.2 計算方法	12

	ページ
14 外観	13
15 試験	13
15.1 はず付着量試験	13
15.2 硬さ試験	14
16 検査及び再検査	16
16.1 検査	16
16.2 再検査	16
17 包装及び表示	16
17.1 板の包装及び表示	16
17.2 コイルの包装及び表示	16
17.3 表示例	17
18 注文時の確認事項	18
19 報告	18
附属書 A (参考) 製品マークの例	19
附属書 B (参考) ぶりき及び原板の耐力	20
附属書 C (規定) ぶりきのはず付着量試験方法	21
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	25
解 説	28

まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 14 条第 1 項の規定に基づき、認定産業標準作成機関である一般社団法人日本鉄鋼連盟（JISF）から、産業標準の案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS G 3303:2019** は改正され、この規格に置き換えられた。

なお、令和 5 年 3 月 21 日までの間は、産業標準化法第 30 条第 1 項等の関係条項の規定に基づく JIS マーク表示認証において、**JIS G 3303:2019** を適用してもよい。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

白 紙

ぶりき及びぶりき原板

Tinplate and blackplate

序文

この規格は、2016年に第2版として発行されたISO 11949及びISO 11951を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、附属書JAに示す。

1 適用範囲

この規格は、主として飲料缶、食缶などに用いるぶりき、及びぶりき原板（以下、原板という。）について規定する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 11949:2016, Cold-reduced tinmill products—Electrolytic tinplate

ISO 11951:2016, Cold-reduced tinmill products—Blackplate（全体評価：MOD）

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、ISO/IEC Guide 21-1に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 0601 製品の幾何特性仕様（GPS）—表面性状：輪郭曲線方式—用語、定義及び表面性状パラメータ

JIS G 0201 鉄鋼用語（熱処理）

JIS G 0202 鉄鋼用語（試験）

JIS G 0203 鉄鋼用語（製品及び品質）

JIS G 0404 鋼材の一般受渡し条件

JIS G 0415 鋼及び鋼製品—検査文書

JIS H 2108 すず地金

JIS K 0050 化学分析方法通則

JIS K 0119 蛍光X線分析通則

JIS K 8001 試薬試験方法通則

JIS Z 2245 ロックウェル硬さ試験—試験方法